

「2008年北京武術トーナメント」 43カ国・地域から126選手の出場が確定 日本から6人 世界選手権選抜枠に大陸別推薦枠を加えて

3月6～7日に中国・北京市で国際武術連盟(IWUF)技術委員会が開催された。

同会議では、今年8月21～24日に北京市で開催される「2008年北京武術トーナメント」の出場資格の最終審査が行われた。

その結果、43カ国・地域から126人の選手が、「同トーナメント」の套路競技と散手競技に出場する資格を獲得した。後日、国際武術連盟執行委員会がこれをあらためて承認したことにより、参加国・地域と出場選手枠が確定した。

「同トーナメント」の出場資格は、基本的には、昨年11月に北京市で開催された「第9回世界武術選手権大会」で行われた選抜競技によって、「同トーナメント」の該当種目で、套路競技は上位6人の選手が、また、散手競技は上位8人の選手が資格を得ることができるとの。日本はこの選抜競技で、套路競技5種目、散手競技1種目で計6種目、6人の出場資格を獲得していた。

今回の会議は、「同トーナメント」の出場資格規定に基づいて、一部の重複した上位獲得選手の種目調整の確認と、大陸別推薦枠(ワイルドカード=WC)の割当てを行い、すべての種目の出場資格者を確認するために開催されたもの。

出場資格規定の骨子:

「同トーナメント」では、套路競技10種目(男子5種目、女子5種目)と散手競技5種目(男子3階級、女子2階級)で、1カ国最多8人の選手が出場できる。1人の選手は1種目に限って出場できる。

- 1) 套路競技は、1つの種目で同じ国から複数選手が6位以内に入賞した場合、又は、1人の選手が複数種目で入賞した場合は、複数のうちのいずれかを棄権し、次点の選手が出場資格を得る。しかし、散手競技では、安全面を考慮して、各階級の上位8人の選手のなかで、怪我等で棄権者が出ても、次点者の補充は行わないことになっている。
- 2) 套路競技10種目について、各種目2人以内の「大陸別推薦枠=ワイルドカード」を設けて、各種目で5大陸(アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、オセアニア)から広く参加する道を開く。
套路競技は、各種目上位6人に、大陸別推薦枠2人を加えて、合計80人の参加枠となる。散手競技は、安全面を考慮して、この特別推薦枠は設けていないので、各階級8人、男女計5階級で40人の選手枠となる。
- 3) 主管国・中国の代表選手8人は、北京オリンピック組織委員会(BOGOC)の承認に基づいてこの選抜枠とは別枠で出場させることとなった。したがって、全選手数は、套路80人、散手40人に、中国選手8人を加えて128人となる。しかしながら、そのなかで、中国選手が散手競技ですでに2人入賞しており、散手競技の選手は変更ができないので、結局、総選手数は126人となる。

ワイルドカードは、1カ国1人に限定:

会議では、まず、大陸別推薦枠(ワイルドカード)の趣旨に照らして、この特別推薦枠は、1カ国1人(=1種目)に限定することが確認された。

ワイルドカードの分配を公平に行うために、「第9回世界選手権大会」における該当套路競技10種目の、競技終了時間の順番に従って、上位6人に含まれていない大陸から出場した選手の成績

順に、各種目2人の選手が確定されていった。

この結果、下記の表に示されるように、アジアから19カ国・地域、計80人、ヨーロッパから13カ国、計23人、アメリカから6カ国、計14人、アフリカ4カ国、計7人、オセアニア計2カ国、2人が出場資格を得た（国名に続いて（ ）内に示されているのが、各国の出場選手人数）。

「2008年北京武術トーナメント」は、アジアからの出場国数、人数が圧倒的に多いものの、アジア以外の4大陸からも多くの国が参加資格を得て、北京オリンピック開催時に挙行される武術競技大会として、盛大に実施されることとなった。

日本の6人はベスト8カ国:

一カ国からの参加選手数としては、日本は、中国、ベトナム、ロシアの8人、マレーシア、マカオの7人に次ぐ6人を派遣する。これは参加43カ国・地域のなかで上位8カ国・地域に入るもので、日本があらためて誇りとすることができるものである。日本選手の本番での好成績を期待し、全力を挙げて応援していきたい。

なお、同会議には、日本連盟の石原泰彦理事がIWUF技術委員会委員として出席した。

アジア(18カ国・地域、合計80人): <中国=主催国別枠 8人> 1. ベトナム(8)、2. マレーシア(7)、3. マカオ中国(7)、4. 日本(6)、5. 中国香港(6)、 6. 中国台北(6)、7. 韓国(5)、8. インドネシア(5)、9. イラン(4+WC)、10. フィリピン(4)、 11. シンガポール(3+WC)、12. ミャンマー(2)、13. タイ(1)、14. カザフスタン(1)、15. 朝鮮(WC)、 16. ウクライナ(WC)、17. スリランカ(WC)
ヨーロッパ(13カ国、合計23人): 1. ロシア(8)、2. イタリア(2+WC)、3. ルーマニア(2)、4. アゼルバイジャン(2)、 5. イギリス(1+WC)、6. スイス(1)、7. アルメニア(1)、8. スウェーデン(1)、9. フランス(WC)、 10. スペイン(WC)、11. イスラエル(WC)、12. オランダ(WC)、13. ポーランド(WC)
アメリカ(6カ国、合計14人): 1. アメリカ(4+WC)、2. カナダ(3)、3. ブラジル(2+WC)、4. メキシコ(1)、5. アルゼンチン(WC)、6. キューバ(WC)
アフリカ(4カ国、合計7人): 1. エジプト(3+WC)、2. チュニジア(1)、3. リビア(1)、4. 南アフリカ(WC)
オセアニア(2カ国、合計2人): 1. オーストラリア(WC)、2. ニュージーランド(WC)

計43カ国・地域 126人。国名の次の（ ）内の数字は、出場選手数。

(WC)は大陸別推薦枠を示す。WCだけによる出場国は12カ国。